

ウィークリーChina No.5
(2011年6月5日～18日)

JETRO 香港センター 花木

<p>9日、中国自動車工業協会は5月の自動車販売台数を発表。</p>	<p>5月の生産台数は134.89万台、販売台数は138.28万台となり、対前月比でそれぞれ12.4%、10.9%のマイナス（対前年同期比ではそれぞれ4.89%、3.98%のマイナス）となった。生産・販売台数がマイナスとなるのは4月に続き2ヶ月連続。</p> <p>1-5月合計では生産が777.97万台、販売が791.62万台となりそれぞれ3.19%、4.06%の増加となった。また、5月の輸出は7.21万台と過去最高となった。</p> <p>5月単月の販売台数では、日系は15.38万台（シェア14.74%）とドイツ系（18.65万台（シェア17.88%））に逆転されたが、これは東日本大震災の影響による生産縮小に伴い、値引き幅が縮小したことが主因。日系の販売台数では、東風日産が5.7万台となった以外はすべて（广汽本田、东风本田、一汽丰田、广汽丰田）2万台以下と、普段の3分の1から4分の1程度にとどまった。</p>  <table border="1" data-bbox="651 1104 1238 1395"> <caption>5月中国自動車販売台数（単位：万台）</caption> <thead> <tr> <th>メーカー</th> <th>販売台数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>上海通用</td> <td>96168</td> </tr> <tr> <td>上海大众</td> <td>91568</td> </tr> <tr> <td>一汽大众</td> <td>79948</td> </tr> <tr> <td>北京现代</td> <td>61884</td> </tr> <tr> <td>东风日产</td> <td>57106</td> </tr> <tr> <td>比亚迪</td> <td>41051</td> </tr> <tr> <td>奇瑞汽车</td> <td>38510</td> </tr> <tr> <td>长城马自达</td> <td>34079</td> </tr> <tr> <td>吉利汽车</td> <td>33040</td> </tr> <tr> <td>东风悦达</td> <td>31160</td> </tr> </tbody> </table> <p>不愿透露姓名的日系车企高层 現在は週3日操業となっている。7～8月には生産を平常ペースに戻し、下半期でいくらかでも損失を取り戻したい。</p> <p>东风本田销售部副部长柳玉春 8月まではこうした低迷が続くことになりそうだ。9月以降も本格的な回復は見込みにくく、通年でマイナスになる可能性もある。</p>	メーカー	販売台数	上海通用	96168	上海大众	91568	一汽大众	79948	北京现代	61884	东风日产	57106	比亚迪	41051	奇瑞汽车	38510	长城马自达	34079	吉利汽车	33040	东风悦达	31160
メーカー	販売台数																						
上海通用	96168																						
上海大众	91568																						
一汽大众	79948																						
北京现代	61884																						
东风日产	57106																						
比亚迪	41051																						
奇瑞汽车	38510																						
长城马自达	34079																						
吉利汽车	33040																						
东风悦达	31160																						
<p>10日、海関総署は5月の貿易統計を発表。</p>	<p>1-5月の輸出は7,123.8億ドルと25.5%の増、輸入は6,894.1億ドルと29.4%の増となり、貿易収支は5月単月で130.5億ドル、1-5月では35.1%減の229.7億ドルとなった。</p> <p>地域別ではEUとの貿易が最大で2,180.1億ドル（+22.9%）、ついで米国1,695.2億ドル（+22.3%）、ASEAN1,408.2億ドル（+26.0%）で日本は1,343億ドル（+20.4%）とこれらに次ぐ第四位のパート</p>																						

ナーとなっている。



国家发展和改革委员会宏观经济研究院对外经济研究所所长张燕生 輸入の伸びが予想を上回ったのはわが国の輸入拡大策が奏功していることを示している。一方、輸出が伸び悩んだ背景にある内外経済の問題を軽視すべきでない。

交通銀行報告 今年後半には米国債務危機問題が解決し、また日本の震災復興需要もあり輸出の伸びにより黒字が拡大することになりそうだ。

13日、人民銀行は5月の貸出残高を発表。

5月の新規貸出は5,516億元、貸出残高は50.77兆元となり、また、5月末のM2残高は15.1%増と増加速度は低下した。M2の増加率は過去2年間で最低で、目標の16%以下を2ヶ月連続して達成した。

亚洲开发银行中国代表处高级经济学家庄健 通貨政策を通じてインフレの抑制に効果が期待できる。政策の効果が浸透するまでしばらくこうした貨幣政策を継続する必要があるだろう。

中央财经大学金融学院教授郭田勇 5月はM1の増加率低下が目立った。特に中小企業の経営状況が悪化し借入れが困難になっていると見られる。

中国建设银行高级研究员赵庆明 貨幣政策は当面採るべき措置を採ったところで、しばらくは政策の効果を見極める時期となる。

14日、国家统计局は5月のCPIを発表。

5月のCPIは5.5%増と、4月(5.4%)、5月(5.3%)に続き3ヶ月連続で5%を上回った。なお、5.5%という数字は過去34ヶ月中の最高である。また、5月のPPIは6.8%と4月と変わらなかった。1-5月の累計での上昇率は5.2%となり、3月の全人代で示された政府の目標(4%)を上回って推移している。上昇率の内訳としては食品関連が11.7%、非食品関連が2.9%と、食品関連が主体となっている。

◎今週の注目ニュース

14日のCPI発表に先立ち、インフレ、特に食品関係（豚肉等）の価格上昇に関するニュースが目についた。また、庶民の関心が高く不満が集まりやすい住宅に関する報道も相次いだ。特に北京市では釣魚台迎賓館に隣接した高級マンションが最大平米単価30万元（390万円）という高値が「暴利」として問題とされ、販売の一時停止が命じられた一方、低所得者向けの社会保障住宅の着工が3割程度と必ずしも順調に進んでいない状況が国土資源部のまとめで明らかになった。（その後、これを受ける形で、北京市が今年の9月までに予定を前倒して社会保障住宅20万户を着工すると表明している。）

インフレとの直接の関係は不明であるものの、暴動の報道も増えているようだ。広州市傘下の増城市では、12日、出稼ぎ農民工に対する都市警察の暴行を契機として1000人規模の暴動が起き、装甲車も出動する騒ぎになったようだ。なお、広東省では先週6日にも潮州市で給与支払いを契機とした農民工の抗議に市民も同調して比較的大規模な騒ぎが起きている。他にもそれぞれ直接的な原因は異なるものの、内モンゴル自治区フフホトや、湖北省利川市でも比較的大規模な騒ぎが起きており、いずれの地域でもその後比較的迅速に平穏が回復されているとはいえ、共産党設立90周年を前にした時期だけに、当局は「维稳」に気を使わざるを得ない状況がこれからも続きそうだ。

◎今週の注目ニュースその2

2008年の4月に着工した北京-上海間高速鉄道が、予定より1年早く今年6月末から正式に運転を開始することになった。速達タイプの列車は時速300km運転で、最短所要時間4時間48分で北京-上海間1,318kmを結ぶことになる。切符の価格は一等が935元、二等が555元とされ、現在走っている特急はそれぞれ409元、327元であり、二等席は割安に設定されたようだ。また、時速250kmの列車の切符は二等が410元とほぼ現在の特急と同じ価格とされた。

上述のように7月1日には共産党結党90周年式典が行われる。今回の開通日程はこれを意識したものであることは間違いなく、北京-上海という中国を代表する都市の間を結ぶ高速鉄道の開通を通じて、中国国民は更に自国の経済発展に自信を抱き自尊心を満足させる展開になりそうだ。（各種新聞には折り込みの新幹線特集記事がよく見受けられる。）

自尊心といえば、現在、大連では、旧ソ連製空母を土台とした中国海軍の第一号空母の艤装作業が最終段階にある。この初航海は7月1日には間に合わないだろうが、10月1日の国慶節には姿を現すことになりそうで、これも国威発揚に大きな役割を果たしそうである。（本格的な原子力空母は別途上海で建造中とされ、こちらは2020年の就航が言われている。）

(以上)